

M&C 2025 に参加して

名古屋大学 修士1年 芳賀周

2025年4月27日から30日にかけて、アメリカ合衆国コロラド州デンバーで開催された国際会議「Mathematics & Computation (M&C) 2025」に参加させていただきました。本会議への参加目的は、自身の研究成果発表を行うとともに、最新の研究動向を把握することです。現地までは中部国際空港から成田、サンフランシスコを経由してデンバーに至る長時間の移動となりました。初めての国際会議ということもあり、緊張しつつ現地へ向かうことになり、移動による疲労は想像以上に大きいものでした。

本会議(M&C)は原子力分野における計算科学に関連した研究を取り扱う会議で、2年に一度の頻度で開催されています。今回は「The Westin Denver Downtown」を会場として開催されました(画像1)。滞在期間中は天候に恵まれ、ほとんどの日が快晴であったことが印象に残っております(画像2)。

開催初日には、Opening Reception に参加し、主にアメリカの大学の学生と交流する機会がありました。交流した学生は皆、博士課程に在籍しており、尊敬するとともに、私の拙い英語に対しても最後まで丁寧に耳を傾けてくれた姿勢には感謝しております。

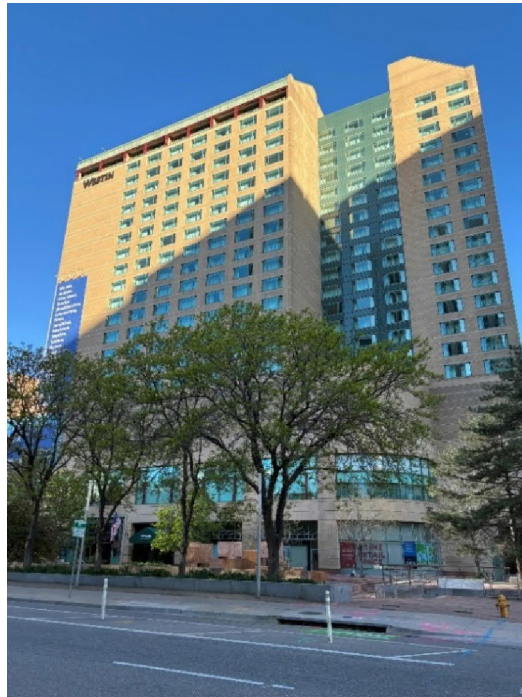
自身の発表では、「Correction Method of Few-Group Cross Sections for Core Analysis of High-Temperature Gas-Cooled Reactors」について、20分間の口頭発表と5分間の質疑応答を行いました(画像3)。初めての英語での発表ということもあり、極度の緊張状態ではありましたが、入念な準備と練習の甲斐があっただけか、無事に発表を終えることができました。質疑応答では、複数の参加者から質問をいただきました。自身の研究内容を国際的な場で伝えられたことに大きな喜びを感じた反面、質問に対して相手の意図を正確に聞き取ることが出来ず、適切な回答ができなかった場面もありました。この経験を通じて、国際的な議論を行うための英語力に明確な課題が浮き彫りとなりました。今後は指導教員からの助言を参考に、英語ニュースの視聴などの日頃の学習を継続し、語学力強化に努めます。

また、自身の発表以外では、今後の研究で取り組もうと思っている随伴やSPH法に関する発表を中心に聴講しました。しかし、高度な数式を追うことに加えて、英語での発表ということについて行くことに精一杯でした。自身の勉強不足を痛感するとともに、今後の課題であると感じました。また、同じアジア圏から参加していた韓国の学生が非常に流暢な英語で発表をしている姿に強い刺激を受けました。

初めての国際会議への参加であり、長時間の移動による体調不良や慣れない環境に戸惑うこともありましたが、しかし、指導教員の先生方や先輩のサポートのおかげで、無事に発表を終え、多くの貴重な経験を得て帰国することができました。特に、自身の未熟な英語でも、研究内容に興味を持って質問をいただけたことは、大きな自信に繋がり、今後の研究と語学習得への強い動機付けとなりました。また、日本人学生の参加者が名古屋大学から2名の

みであったことは少しだけ寂しく感じられたため、今後は日本の若手研究者の参加がさらに活性化することを願っております。

最後になりましたが、本会議への参加にあたり、旅費のご支援を賜りました炉物理部会の皆様に心より感謝申し上げます。また、日頃よりご指導いただいております山本先生、遠藤先生に深く御礼申し上げます。



画像1 会場の写真



画像2 デンバーの様子



画像 3 発表時の様子